



緑の活動団体交流サロン ヒント集 緑のクラフト編

(公財)川崎市公園緑地協会では、川崎市内で活動されている皆さんを対象に「緑の交流サロン」を開催しています。それぞれの活動について情報交換や活動につながるアイデアなど団体間を超えて気軽に楽しく交流することを目的としています。

今回は、花壇活動や里山活動をテーマに「NPO 法人 GreenWorks の牧野ふみよさん」と「NPO 法人日本の竹ファンクラブの根岸秀行さん」をお招きし、専門的なお話や自然の素材を使ったクラフトの指導を頂きました。また、活動に対する意見交換や質疑応答なども行い、今後の活動に生かせるアイデアも沢山頂きました。

3回の交流サロンを通して、活動における課題解決などに繋がるアイデアをヒント集としてまとめました。日頃の活動の参考には是非お役立てください。



(公財)川崎市公園緑地協会



・自然の恵みを使ったクリスマスクラフト
マツボックリやシャリンバイの実、コニファー、木の枝等を使ってクリスマスオーナメント制作をしましょう。ラメ入りマニキュアを使えばさらにクリスマスらしくなります。デザインは自由。自らデザインする楽しみましょう。



・竹の間伐材を利用した食器
竹の間伐材をナタやノコギリで適当な大きさや形にカットしコップや器を作ります。切断面を刀で面取りしたら最後に紙ヤスリで整えます。ほんのり竹の香りがする食器でティータイムを楽しみましょう。



・竹の間伐材を利用したクラフト
竹は丈夫なので色々なものに利用されます。竹とんぼ、竹笛、健康竹踏み、竹灯籠等の制作は子供にも人気です。刃物を使用する際には十分に気をつけて作業し、必要な場合は保険にも入りましょう。



講師からのワンポイントアドバイス
活動に多く参加している人を毎年表彰することで、その人のモチベーションを向上させることができます。参加日数に応じて年間のポイント数を計算し、そのポイント数に応じて表彰。副賞に商品券を渡したり、復興支援も兼ねて福島県のお米を渡すなど、工夫をすると参加者のみなさん楽しんでいただけます。

参加者のモチベーションをさらにアップ！ 活動後の嬉しい「お楽しみ」

活動において、作業だけではなく、嬉しい「お楽しみ」を参加者に喜んでいただくことで活動が活性化されます。参加者の活動に対するモチベーションをあげることも、活動をするうえでも重要です。

■植物を利用・活用する

・小さなブーケ
切り戻しや枝すかしをするときにカットされる八分咲きの花等を使って、おしゃれなブーケを作ってプレゼントしましょう。収穫の喜びを感じていただけます。

・ハーブクッキング
自らが育てたハーブを使ってハーブティー、焼酎ハーブ割等を活動後に楽しんでみましょう。ローズマリーやタイムを加えたクリームチーズ、バジルを混ぜたバジルおにぎり等と一緒にテーブルに並べて、ハーブクッキングパーティーも喜ばれます。

・ハーブクラフト
ハーブの香りを活かして、ハーブ石けん、ラベンダーにおい袋、ポプリ等の制作を楽しんでもらいましょう。見た目もかわいく、香りも良いクラフト類は気持ちを豊かにしてくれます。



・ドングリを使ったアクセサリー作り
ドングリは誰でも簡単に手に入る自然素材です。紐とワイヤーを使って、かわいらしいアクセサリーを作ってみましょう。



なぜ活動をするの？ 活動をする事の利点

花壇づくり活動における利点

NPO 法人 Green Works 牧野ふみよさんのお話

大岡山駅前花壇、フェリーチェガーデン日比谷テラスガーデン等における植栽を手がける。



コミュニティーガーデンで「地域の庭」をつくる。

- ・みんなの意見や希望をまとめて庭作りをするので、住民同士の顔が見える町が生まれる。
- ・住民同士の交流が深まることで地域の防犯や活性化へつながる。
- ・「ガーデニングをやりたい!」という人々への励ましへとつながる。
- ・ガーデニング好きな仲間と一緒に活動することで、視野を広げることができる。

里山保全活動における利点

NPO 法人日本の竹ファンクラブ根岸秀行さんのお話

小机城址市民の森、こどもの国等にて竹林整備を行う。



荒れている竹林を美しく、ワクワクする交流の場所にする。

- ・手入れをすると同時に色々な竹のイベントを開催する。きれいな竹林に生まれ変わると同時に、地域の人にとってワクワクするような場所となる。
- ・イベント時には竹林の近隣住民や地元企業の社員が手伝いに来てくれたりするなど、地域交流につながる。

新しいことにどんどん挑戦！ 活動を盛り上げるヒント

花壇づくり活動におけるヒント

NPO 法人 Green Works 牧野ふみよさんのお話



①一年草花壇から宿根草花壇へ

- ・宿根草花壇は初期投資にかかる費用が高いが、年月を重ねるごとに植替える箇所が少なくなるため、結果的にはローコスト花壇へつながる。
- ・3年間宿根草花壇メンテナンスにかかるコストを計算してみると、一年草花壇よりローコストになることがわかる。
- ・一年草の背景として風景を作ることができる。
- ・大きく育った宿根草は株分けをすることができる。
- ・季節の移り変わりを知らせてくれる。

②花壇のデザインをみんなで決める

- ・花壇づくりにむけて準備委員会を行い、「どんな花壇にしたいか」について意見を集める。
- ・年2回ほど、植え替えを行う際には皆が植えたいと思う植物を植える事によって美しい花壇を保つ。

③「たねダンゴ」で種撒き

- ・けと土や赤玉土を混ぜてつくった「ダンゴ」に撒きたい種を少量つけて、軽く種を練りこみ、よく耕した土に植えるという方法。
- ・「ダンゴ」をつくる楽しさから種撒きがイベントとなるという利点がある。
- ・ダンゴには保水性があるため、乾燥を防ぐという利点もある。

④プラグ苗の使用

- ・プラグトレーという小さなくぼみがたくさんあるトレーに土を入れて、種をまいて小さな苗まで育てたものをプラグ苗という。植え傷めが少なく鉢上げが簡単な為、植替えが楽という利点がある。
- ・発注時期を考慮して計画をする。12月には5月頃植える苗の計画を立て1月下旬に発注する。冬～春花壇用は5月頃計画する。
- ・オープンデーに地域の人と一緒に鉢上げを行ってもらいと、鉢上げがイベントとなって交流が生まれる。

里山保全活動におけるヒント

NPO 法人日本の竹ファンクラブ根岸秀行さんのお話



①近隣の人々にも楽しんでもらえるイベントを開催する

- ・竹の間伐材を使って行われる竹灯籠まつり。自分達がきれいにした竹林で、たくさんの人が喜んでくれることが、メンバーの大きなやりがいへつながる。

②活動で得られた自然の恵みを使って、様々なことにチャレンジ

- ・穂先筍をゆでて、味付けし乾燥させ、するめのような食感にした「竹するめ」の開発に挑戦している。自分たちで加工、販売をめざす。
- ・竹の楽器を使った楽団を作って音楽祭を開催し、竹の魅力を知ってもらおう。

日頃の活動における皆さんからの質問

Q&A

花壇づくり活動における Q&A

NPO 法人 Green Works 牧野ふみよさんに寄せられた質問集



Q. シュウメイギクの芽があちこちから出る。花が毎年2～3輪で終わってしまう。

- A. 地下茎で広がるので、新芽は抜き取り親株には春に肥料を施すと良い。
- A. 勢いのある株は抜いて株分けをし、別の公園に植えると良い。

Q. バックヤードが無く、花苗等の管理の仕方に困っている。

- A. 活動するメンバーで少量ずつそれぞれの家庭で育ててもらおうと良い。

Q. ビオラ、パンジーの種はいつ頃撒くのが適当？

- A. 夏の暑い時期、8月末くらいに播種する。お彼岸過ぎくらいに撒くと年内に咲く。色々な条件に合わせてプランを立てて、それぞれの花壇を作ると良い。

Q. 夏はひまわり、冬は宿根草の葉で花壇の裸地をしのいでいるが、他に方法は？

- A. マルチングやグラウンドカバーをして、なるべく地面をむき出しにしないほうが良い。

Q. 宿根草切り戻しのタイミングがわからない。

- A. 駅前花壇等は人目につくので少しずつ、あまり人目につかない花壇では一気に切り戻すと良い。その際には、葉の出ている箇所を少し上を切るようにすると良い。伸び切って垂れ下がり、地面についている葉は切り取る。中が混んでしまっている株は、葉をすくと良い。

Q. プラグ苗ではなく、直接ポットに播種して花苗を育てる方法はだめか？

- A. その方法で育ちやすいものとそうでないものがあり、撒いてみないとわからないので色々試すと良い。プラグ苗の方が育ちやすいものもある。

里山保全活動における Q&A

NPO 法人日本の竹ファンクラブ根岸秀行さんに寄せられた質問集



Q. メダケが大量に枯れた。再生方法はある？

- A. 花が咲くと枯死し、寿命はおそらく30～40年。大量に枯れた原因は花が咲いたか、地下茎が劣化したかの二つが考えられる。翌年春に新芽がでているかどうか、掘って地下茎が枯れていないかを確認すること。地下茎が黒っぽくなっていたら痛んでいる証拠。この場合、新しく植えるのがよい。

Q. 農林業体験に使われている畑は自前の土地？

- A. 日本の竹ファンクラブが使用している土地は、どのフィールドにも地主さんや役所がいる。畑は役所の人が探してくれたり、自分たちで探したりして、協力してくれる地元の人から使わせてもらっている。

Q. 竹灯籠祭りのろうそくの火について、竹林所有者の火事の懸念をどうしたか、市や当局の規制についてどう対処したか？

- A. 竹灯籠祭りの会場は竹林の中で行うので、斜面が多く、下は笹だらけ。灯籠が倒れて笹に火が点けば大きな災害へつながる。消防署に灯籠を持って行って、竹灯籠の中に水を入れ、そこにろうそくを浮かせることで、灯籠が消火器の役目をしている事を説明している。会場内に消火器や水を設置している。普段から放置されている竹林をきれいに管理することによって、イベント時も竹林所有者や近隣住民の理解を得やすい関係を築いておくことも重要。

